

藤馬会会長 福塚 秀彰

となったのか、解決への糸口すら見つけられない現状に、苛立ちを感じずにはおられません。私どもの世代からすると、やはり、価値観の多様性という言葉の中に、落ち込んでしまい、個々の人間の存在感が希薄になっていることが原因な

それは、強制されるものでないという自由さの中に潜む、恐ろしいほどの巧妙な社会システムからの見えざる価値観の強制が見え隠れするからです。組織という組織が豪華を迫られているなか、勝ち組みと負け組の腑分けのすすむなかで

いただいた推薦状
龍岳不二（77年度生）

同志社を卒業して、早や、24年、藤馬先生には、長らくご無沙汰したままです。「藤馬会」同窓会の案内を毎年頂くものの、まだ、一度も顔を出さしていただいたことはありません。そんな私ですが、この度、事務局の方から原稿依頼があり、「藤馬先生からご紹介がありましたので……」のひと言を聞いて2つ返事でお引き受けしました。

きたいと考え始めていました。個人的な伝手等を通うて進学先の情報を集め、その結果、大阪教育大学（障害児教育学科）の大学院（修士課程）を受験することにしたのは良かったのですが、受験資格には、大学での専攻は問わないものの、大学からの推薦状という一項がありました。この推薦状を私は厚かましくも藤馬先生にお願ひしたので

私は、現在、郷里の福岡で、養護学校の教員をしております。同志社に入學した当初は、教員になろうと言つ考へなど全くなかつたので、教職の単位もとつていませんでした。當時の大学生生活はというと、藤馬先生のゼミを除けば、授業そつちのけでサークル活動にかまけておりました。しかし、このサークル活動がきっかけで障害児・者の問題に関心を持つようになり、それは、いつしか、自分を

でした。今、考えると、法律の勉強もまともにやつてない私の「未知の分野を勉強したい。」などという申し出に、よくぞ推薦状を書いたのだけたと思います。藤馬先生は、この件で研究室を訪ねた私に、嫌な顔つされず、快く応対して頂いたことを覚えています。「貴方が進もうと決めた道であればがんばりなさい。」

あの時、先生にかけていたのだいたひと言は、私にとつてたいへん励みになりました。

藤馬会の歴史も、歴史と
言へるほどの年輪を重ねて
きました。この間の社会の
変革は、すごいものがあり
ます。その中で「セミ」の同
れば、なりません。

窓会」として、歴史を積み重ねてきたことの重みを感じずにはおられません。このような時代だからこそ、緒させてもらいたいと思えます。

た。そのお蔭で、大学院に重く響く。恋愛物語にして、何とかが合格し、通信教育は重過ぎるのでは。在日ので教員免許取得後、福岡市知人にそう尋ねると、「悍（ハン）が底にあるから」の教員に採用され、以後、今日まで障害のある子供たと教えてくれた。

ちの教育一筋に歩んでくることができました。今回は、藤島先生への感謝の気持ちが伝えたくて、不肖ながらペンをとらせていただいた次第です。

彼は言う。「恨」は伝統感には欠かれない伝統的感情だ。「恨み」という字と似ているが、まったく違ふ感情で、辛い現実に対する情動とから生れる無念の情動と

「冬ソナ」から
パンソリへ
心の交流を
中野 真一（78年度生）

「冬のソナタ」。この韓国ドラマにはまった方は多いのではないだろうか。私もとりこになった一人だ。

この映画の公開された1994年、日本でもパンク

「ふ、ミニヨハキでござんじていたのに、複雑に絡み合う愛憎劇と、確かな演技に、ぐいぐいと引かれていった。

めんなさいと言いません。一番大切なものを持っていったから」。記憶を呼び戻すうちに思ひ出しはけいた。

ない過去になどと着いてしまふ主人公たち。せりふの一言隻句がドラマにしては

私も参加して5月、パンソリの祭典「南原春香祭」を見に行った。南原市は韓国南部のパンソリ発祥の地。山間の小さな街は、深夜まに含わせて、いろいろな販り決めが自由押しにやってくる。法務部に所属する私にとっては、個人情報保護法・割賦販売法・特定商販

で歌い、踊る人たちが満ちあふれ、パンソリが韓国民衆の心にいまも生きていることがわかった。

会では、来年の震災10周年に合わせてチョンさんを再引法・消費者保護法・賃金法規制法・出資法等々、頭の中が飽和状態になりそうなど、次から次へと、法律改正・新法制定のオンパレードである。

び招き、神戸と大阪での公演を計画している。南原市で中山さんから直に公演を要請されたチョンさんも「とてもうれしいこと」と快諾。「この10年間、苦勞さ

そんなある日、ふと立ち寄った書店で、法務関係の資格の本を手にとってパラとページをめくってゐた。愕然とした。当たり前のごとが並んでいるのだが

れた方を少しでも励ました
いと楽しみにされている。
藤馬会と韓国は直接つな
がりがないかもしれないが、
阪神大震災で被災した会員
の頭詰め込んだのは、
読んで理解は出来ても、咽
の中に記憶していないこと
が一杯なのである。今ま
前述のとおり、特別法の世

はいる。できればチョさんの2度目のチャリティー公演が成功するようご支援をお願いしたい。パンソリから「冬ソナ」まで続く「恨

の心が日本人にも理解され、心と心をつかち合えるようになることを夢見ている。

西村直巳
(79年度生)

新聞紙上を騒がすことが当然にしないように。原点是

しに書かせていただきます。

2001年から2003年の2年間、米国ワシントン州に留学し、州立大学院で公共政策学を学びました。大学院の出願の際、恩師の

普通科高校を。校・定時制の工業高校・美術系高校と、5校の学校を繰りました。定時制では、六十才の生徒に教えたり、ある普通科高校では、親が事業に失敗し、留学出来たのも、藤馬先生に推薦状を

負債を抱えていたため、就学旅行先まで担任していた女子生徒を、金融業者が追って来たなど様々な経験をしました。学生時代には、全く勉強せず、ゼミの時間のおかけと心から感謝しております。

留学中は、毎週500ページほどの文献を読み、レポートをまとめる（しかも単語末には授業ごとの課題が、

にも恵友（財閥系保険会社勤務のT氏）と、女子のこ（積みんに）という大変な学生生活でした。それでも社会に出て再び飛び込んだ学問の世界では「学ぶ。議論する。発見する。」という

と思っています。
 さて、本当に勉強しない
 学生時代を送った私ですが、
 少しだけ学んだことがあります。
 それは、藤島先生の
 楽しさと充実感を存分に生
 わつことが出来ました。
 渡米してまもなくN.Yで、
 同時多発テロが起こり、同
 僚情勢の変化を肌で感じまし
 ます。それは、藤島先生の

学生との接し方です。先生は、学生と二緒になつて、いろいろと教え、語り合ひ、遊んで下さいました。しかし、寺子屋で、自分の

スタイルをお持ちで、威があられました。私は、藤馬先生のように、生徒達と一緒にになって行動しつつ、自

分のフタイルをもち近合し
ない教師をめざしつつ、ま
だ果たせていません。あと
が2人（細見君、田口君）、

勉強中です」
榎崎 いずみ
(92年度生)

今年の夏は、異常に暑く
そのせいか台風による大炎

編集後記

という役所に採用されてから8年と数ヶ月になる。法務局というのは、不動産や会社の登記、戸籍、供託、人権擁護などの業務を所掌している法務省の下部組織としてのなかに、一縷の光

「三重売買の優劣は登記の後で決す」程度のこと
は法学部生の常識として知
であった。

であるか、採用後、私がま
ず配属されたのは登記部門
であった。

与えてくれたのはやはり、
サッカーワールドカップア
ジア予選での日本の二度
わたる劇的な大逆転とオ
ンピックでの日本人選手
大活躍ではないでしょうか。

っていたが、恥ずかしながら「法律の勉強は肌に合わないわ」と思いながら法学部に在学していた私である。改めて「教育」のす

では……といった言葉が飛び交う世界に入り込んで、頭を抱えたのはいうまでもない。

しかし、登壇だけでなく、が今の子供たちに対して

「平和な世界」を築くた
の教育をしてくれたら。
最後になりましたが、
回原稿を寄せていただき
ました方々におかれましては、

と来なかった法律のシステムが、活き活きとした形で目に映るようになってきた。すると不思議なことに

劫でなくなってきたのだ。
最近では、私のつたない説
きます様宜しくお願い致
します。(亀井 徹・79年度生

きます様宜しくお願い致します。(亀井 徹・79年度生)